

ヨツボシミズギワコメツキの形態について

大 平 仁 夫

Notes on the Morphological Structure of *Fleutiauxellus yotsuboshi*
(Coleoptera, Elateridae) from Japan

Hitoo ÔHIRA

Maigi 6-4, Okazaki City, Aichi, 444 Japan

Abstract *Fleutiauxellus yotsuboshi* (KISHII, 1976) was originally described from the Kizu river-side in Kyoto Prefecture, Honshu, based on the female holotype. General structure of this species examined by SEM-images (Fig. 1) is described facilitating recognition of its systematic position in the Negastriinae from Japan.

ヨツボシミズギワコメツキ *Fleutiauxellus yotsuboshi* (KISHII, 1976) は、京都府井手町の木津川河原で採集された雌個体の正基準標本に基づき、KISHII (1976) が新種として記載 (原記載時の属名は *Migiwa*) した種で、ほかに兵庫県伊丹市の猪名川で得られた雌個体も副基準標本に指定されている。その後、岸井 (1984) や渡辺 (1985) は、岡山県岡山市大原や苫田郡奥津でもこの種が得られたことを報告し、渡辺は「県内河川の中～下流部の河原に産する斑紋を有する本属の種は、大部分本種ではないかと考えられる」と述べている。ここでは、未知であった雄の形態などについて明らかにしておきたいと思う。

本文を草するにあたり、標本について支援をいただいた大阪市の有本久之氏と、倉敷市の渡辺昭彦氏に心からお礼を申し上げる。

成 虫 の 形 態

雄。体長は 3.5~4 mm。体は長卵形でやや扁平、黒色で光沢を有し、淡黄灰色毛を生ずる。触角の基部 3 節 (第 3 節はやや暗褐色)、上翅の 4 個の斑紋、肢 (腿節はときにやや暗褐色) などは黄橙色、前胸背板上には倒伏状のやや長い毛を生ずるが、上翅は短毛を一樣に生じ、長毛を混生しない。

前頭横隆線は顕著に縁取られ、前縁は弧状を呈する。触角は比較的短く、末端は前胸背板の後角よりわずかに短い (Fig. 1 A)、第 2 節は棍棒状で、第 3 節はやや倒円錐形状で第 2 節の約 1.3 倍の長さ、第 4 節から鋸歯状を呈し、第 4 節は第 3 節よりわずかに長い (Fig. 1 H-I)。

前胸背板は矩形状で、長さよりやや幅広く、両側は中央やや後方部でもっとも幅広い。後角は後外方へ突出し、背面には 1 隆起線を有する (Fig. 1 E)。背面の正中部にはやや幅広い平滑縦線 (Fig. 1 F の ↑印) を有し、周辺の前半部では点刻の外側部がコブ状に隆起する (Fig. 1 F)。前胸腹板突起は、前肢基節腔のところで弱く内方へ湾曲、そこから後方へまっすぐに伸長、末端は細まってとがる (Fig.

1 C). 小盾板は比較的幅広く、末端部は湾曲して鈍くとがる (Fig. 1 B).

上翅の条線は明瞭に印刻されるが、間室部はやや扁平状、点刻を生じ、不規則な横しわ状を呈する。腰板の内方部は幅広く、外方へ漸次細まる (Fig. 1 D).

雄交尾器の腹面からみた末端部の外形は図示 (Fig. 1 G) したようで、中央突起は末端に向かって漸次細まり、末端は鈍くとがる。外突起は細長く、両側は平行状で、末端は細まって鋭くとがる。

雌。体長や上翅の黄斑、一般外形は雄の場合に類似する。触角はやや短く、第 3 節はより細長く、第 4 節からの鋸歯状もより弱い (Fig. 1 J)。産卵管の末端部 (一对ある片方を示す) の外形は図示 (Fig. 1 K) したとおりであるが、この主要形態は属間でもほぼ相同である。また、内部生殖器の交尾囊 (bursa copulatrix) 内には 2 枚の角質状の板を有するが、その 1 枚の板の一部は図示 (Fig. 1 L) したとおりである。しかし、この板の形態には、個体による変異がみられる。

あ と が き

本種は、一般に河原の砂礫中に生息し、ときにミズギワコメツキ *Fleutiauxellus curatus* (CANDÈZE, 1873) と混生している。成虫の発生期は 6 月上旬ごろで、7 月に入るとほとんど見出されなくなる。また、成虫は河原に生えている雑草の葉状にもいて、雑草につくアブラムシ類を捕食したり、その分泌物を舐食したりしている。

本種は、一般外形が九州地方に分布するヒゴミズギワコメツキ *Fleutiauxellus modestus* (LEWIS, 1894) にきわめてよく似ているが、肩角部の黄斑は通常、上翅側片 (elytral epipleuron) まで拡大しないので識別できる。本種の上翅の黄斑には変異があつて、翅端部のものはほとんど消失することがあるが、前後の黄斑が相互に連絡するほど発達した個体には接していない。本種の分布は、今のところ近畿地方から中国地方にわたっている。

引 用 文 献

- KISHII, T., 1976. New Negastrinae with some notes. Some new forms of Elateridae in Japan (X). *Bull. Heian High School, Kyoto*, (20): 17-45.
 —— 1984. 未記録および珍しいコメツキムシ若干について. 月刊むし, (166): 21-23.
 渡辺昭彦, 1985. 岡山県のコメツキムシ追録 II. すずむし, (120): 5-6.

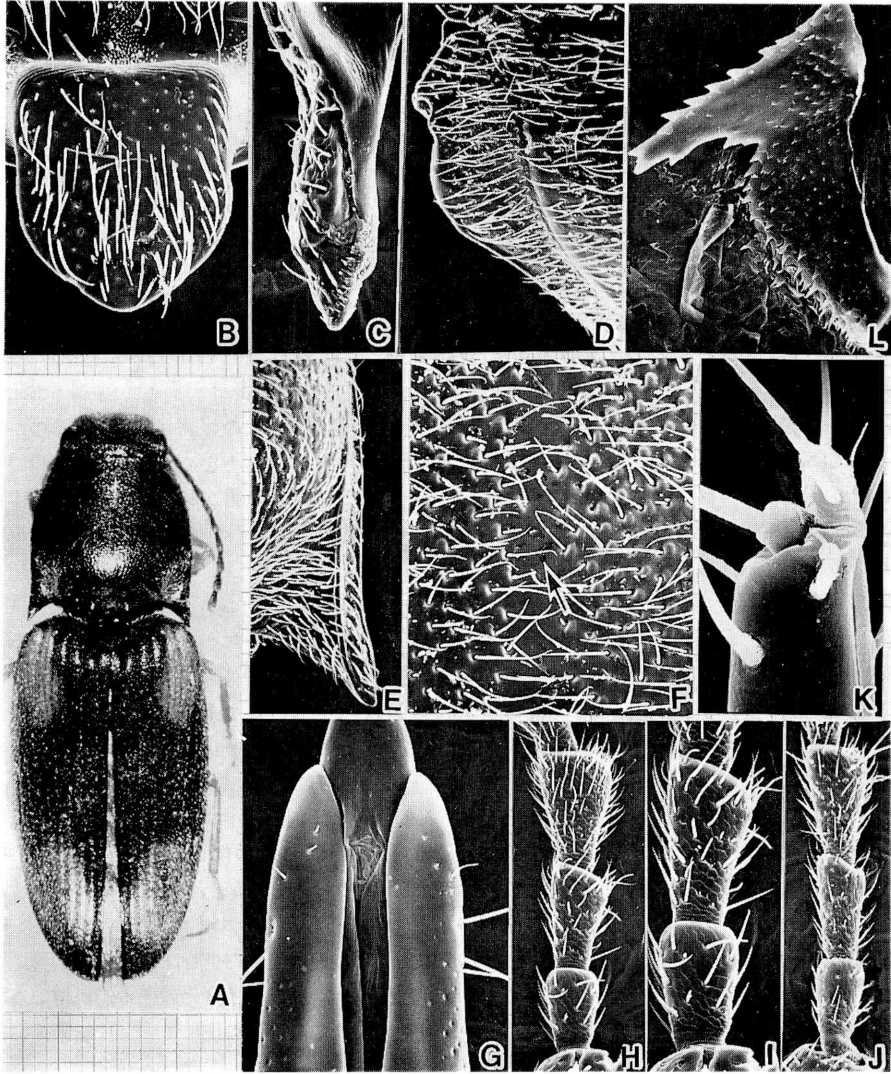


Fig. 1. *Fleutiauxellus yotsuboshi* (KISHII, 1976), male (except for J, K, and L which are of a female), Kizu river-side in Kyoto Prefecture. A, Adult, dorsal aspect; B, scutellum; C, prosternal process, lateral aspect; D, basal plate; E, right posterior angle of pronotum; F, disc of pronotum (↑-portion is a median longitudinal line); G, posterior portion of aedeagus, ventral aspect; H, 2nd to 4th segments of antenna; I, 2nd and 3rd segments of antenna (enlargement of H); J, 2nd to 4th segments of antenna; K, apical portion of ovipositor ($\times 3,000$); L, sclerotized plate in bursa copulatrix.